

はじめに

高等部は、社会に生徒を送り出す学校教育最後の場である。したがって、生徒の発達を援助し、障害に基づく種々の困難を克服することのみならず、個性に応じて進路を決定させ、一般的な教養を高め、専門的な技術に習熟させ、社会生活や職業生活に適応できる人間の育成を強く意識しなければならない。

高等部の教育は、小学部や中学部で身につけた日常生活に必要な基本的な事柄や社会生活に必要な初歩的な事柄を、意欲的に生活に取り組みさせる中で、さらに確かなものとして定着させるとともに、

1. 生活や作業に必要な基礎的知識・技能を習得し、よりよい人間関係や労働を尊重する心を培うこと。
2. 自分の健康を保持・増進させ、障害の克服に励み、たくましく生きぬくように努めること、を重点目標として指導をしている。

高等部のめざしている生徒像は、「自ら学ぶ気力あふれた子」である。すなわち、障害をのりこえ、その力を精一杯に伸ばし、働くことに喜びを持ち、社会の一員として生きる人間の育成である。

社会に巣立つ生徒がどのような社会に生きていくとしても、周囲からいろいろな援助を受けながらも、絶えず自らの手でやりきろうとする気力を持って物事に取り組むことは大切である。

生徒たちが、年齢と経験の重みをバネにして、学部・学級経営の中で、段階別教育内容表の内容Ⅳ～Ⅵ段階を一つ一つ確実に身につけていくことが、たくましく生きぬく力（自分の健康を保つ力・意欲的に生活し、働く力）になり、社会的自立をより確かなものにする可以考虑している。

〔1〕 研究の経過(昨年度の取り組み)

本校の研究テーマ「発達と障害に応じた教育をめざして一からだづくりを通して」に基づき、高等部の研究テーマを「すすんで運動を楽しむ子」と設定し、生徒の実態・問題点の把握、指導形態、指導内容の検討を行って、実践に取り組んだ。

「すすんで運動を楽しむ子」とは、運動の習慣化を図るということであり、運動の習慣化によって、生涯スポーツの橋渡しにするとともに、自己の健康を保持・増進する力を身につけさせようとするものであった。そして、自己の健康を保持・増進させるようになることが、運動能力の向上のみならず、集中力の向上や働く力をより高め、社会的自立をより確かなものにしていくことであると捉えての研究実践であった。

なお、高等部では、「からだづくり」に取り組むにあたり、「健康」とは、病気でないというだけでなく、心身の障害を克服するとともに、活力のある身体をもち、安定した心で、意欲に満ちた社会生活ができることと捉えた。また「体力」とは、現在の自己の持つ生命力を保ち、かつ、将来に渡って自己の心身の健康を保持・増進していく力となるものであることと捉えた。「からだづくり」を考えることは、身体諸機能の充実を図るだけでなく、精神の安定・成長を図れ・身体諸活動を通して脳へのさまざまな刺激を与え、あらゆる面での発達を促進できることになり得ると考えての実践であった。